

## 学修時間・学修行動調査（2018年度前期） 分析結果

学習支援センター

2018年12月4日

本資料は、2018年9月13日から9月27日にかけて、教務委員会と学習支援センターが実施した「学修時間・学修行動調査（2018年度前期）」の回答内容を分析したものである。当該調査は、2013年度前期より、各期の終了後に4学部の1～3年生から学生を抽出して実施してきたが、前々回（2017年度前期）より無記名のまま全学部・学年向けの悉皆形式へと切り替えた。

調査はこれまで同様、質問用紙と回答用紙を配布して、記入された回答を集計する方法で行った。調査の実施に際しては、教務委員の方々に各学部での取りまとめを行っていただいた。

回答状況を表1に示す。4学部のすべての学年から回答が得られた。全在籍者数に対する回答率は、61.7%となった。薬学部5年生は、学外で実習を行っている時期のため回答率は少ない。

表1 回答状況（学部・学年別）

	総合経営学部	社会学部	ソフトウェア 情報学部	薬学部	学年計
1年生	52名	47名	43名	35名	177名
2年生	100名	56名	41名	41名	238名
3年生	70名	31名	19名	37名	157名
4年生	36名	13名	24名	42名	115名
5年生				3名	3名
6年生				42名	42名
学部計	258名	147名	127名	200名	732名

前々回の調査から、悉皆化に加えて、質問内容にも次の三つの観点に基づき改善を加えた。

- ◇ 「授業評価アンケート」との重複を抑えるよう、個別の科目に関する質問を削減する
- ◇ 授業時間外学修に関して、より詳細に把握するべく、学修の種別（予習、復習など）ごとに充てている時間を調査する
- ◇ 大学生活の中での体験や学修に臨む際の姿勢や態度等を調査項目に追加する

また、前回の調査では、「大学生活で感じていること」を尋ねる4問と「大学入学後に体験したこと」を尋ねる5問を年に一度（前期調査）のみで確認するとしたが、その後、別々実施している「学生による満足度調査」との間で項目の整理を行い、最終的に、前回調査より学修支援と学生支援に関する項目など三つを削減した。

調査用紙を、この資料の最後に添付する。

以降、それぞれの質問に対して、前期調査との比較も含めた分析結果をまとめる。

### Q3. 2018 年度前期に履修した科目数を記入してください。

最終学年（薬学部：6年生、他の3学部：4年生）は、卒業研究や卒業論文に多くの時間をかけているため、それ以外の学年についてまとめたところ、平均受講数は11.8、標準偏差は3.3となった。これらの値は、これまでの調査とほぼ同じである。なお、学部ごとの平均は11.6（ソフトウェア情報学部）から12.0（総合経営学部）までと全学とほぼ同様であった。一方、標準偏差については薬学部以外が2.9（ソフトウェア情報学部）から3.3（総合経営学部）までと全学よりも低めに、薬学部は3.9と高めであったが、学部間の差は前回より縮まった。

また、前回と同様、学年が上がるにつれて履修科目数は減る傾向にあり、この質問の回答と学年(Q1\_2)との相関は-0.63（前は-0.70）であった。

### Q4. 「典型的な一週間あたりの時間の使い方」について、以下のそれぞれの活動にかけている時間を選択肢から選んでください。

この質問では、授業時間外学修の状況を中心に、一週間あたりの時間の使い方を尋ねた。図中の配色は、時間が少ない順にそれぞれ次のようになっている。Q4では、回答状況を示す図を、「ゼロ（未回答を含む）の者」と「実施している者」の回答の二つに分けて示す。

#### 回答内容

■ : 「まったくない」、 ■ : 未回答  
■ : 「週1時間未満」、 ■ : 「週1～3時間未満」、 ■ : 「週3～5時間未満」、  
■ : 「週5～7時間未満」、 ■ : 「週7～10時間未満」、 ■ : 「週10時間以上」

ゼミ活動や研究室での研究活動にかかる時間は、総合経営学部とソフトウェア情報学部が多く、薬学部は少ない結果となった（図1）。全学部平均(約5ポイント減)と学部別の順番は前回までと同様であったが、総合経営学部とソフトウェア情報学部で「実施している」率がこれまでの7～8割程度から6割程度へと減っている。逆に、薬学部では前回までの「実施している」率がこれまでの2割程度から3割程度へと増加している。社会学部では変化はほとんど見られない。このため、学部間の差は大きく縮まっている。

なお、ゼミ活動や研究室での研究活動にかかる時間の回答は、他のどの質問とも相関は見られなかった。

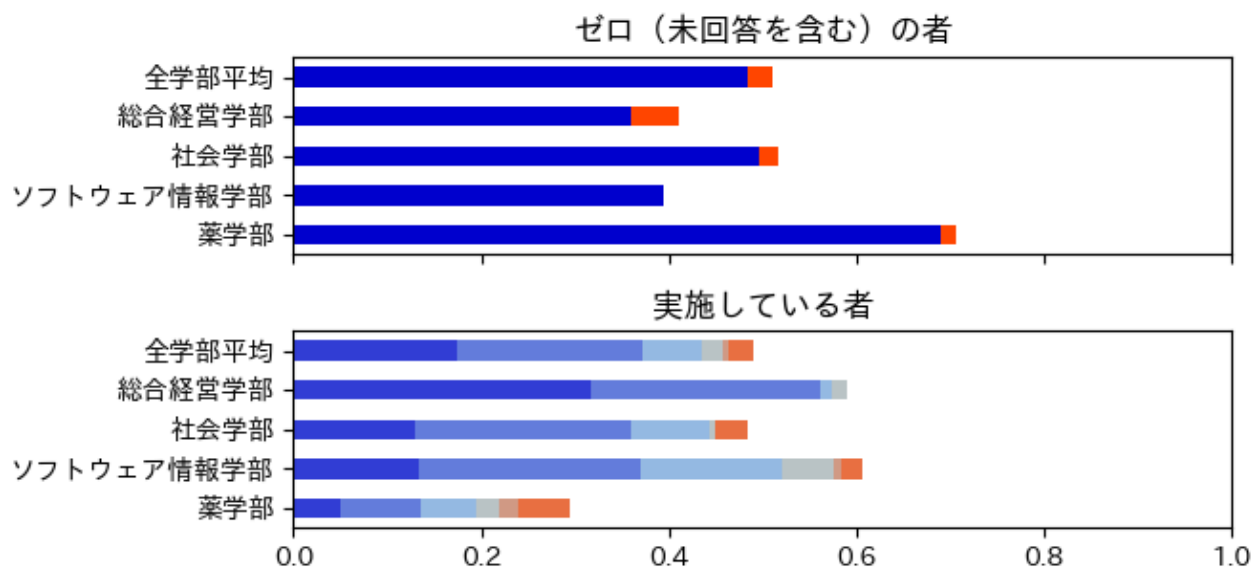


図1 「Q4-1.ゼミ活動、研究室での研究活動」の回答分布

授業の予習と復習に書ける時間は、図2や図3のような状況であった。これまでと同様に、全体的には予習にかける時間よりも復習にかける時間が多い。とくに薬学部ではほぼすべての学生が日常的に復習を行っており、かけている時間が長い学生も一定数いることが分かる。その一方、予習や復習を行っていない学生の割合は、総合経営学部が高くなっている。各学部最終学年を除くと、予習と復習の両方を行っていないと回答した割合は、総合経営学部2年生が30.0%ともっとも高い。

2016年度以前の学修時間・学修行動調査（抽出形式、1～3年生対象）では、学修行動の内容と授業時間外学修時間を別々に調べており、直接的には比較できないものの、「予習は復習よりも行っている割合が少ない」、「予習時間は2年生になると少なくなる」は変化していない。

調査対象時期が同じである前々回の調査と比較すると、全学で「実施している者」の予習時間は3.5ポイント減、復習時間は1.3ポイント減と、ほとんど変化は見られない。学部単位で変化が見られたのは、予習時間では薬学部で約10ポイント少なくなっていること、総合経営学部と薬学部において復習時間がそれぞれ数ポイントずつ増加していることであった。

なお、Q4-2とQ4-3の回答はそれぞれ離散的であるが、これらの間には0.45とやや相関が見られた（前回は0.43）。

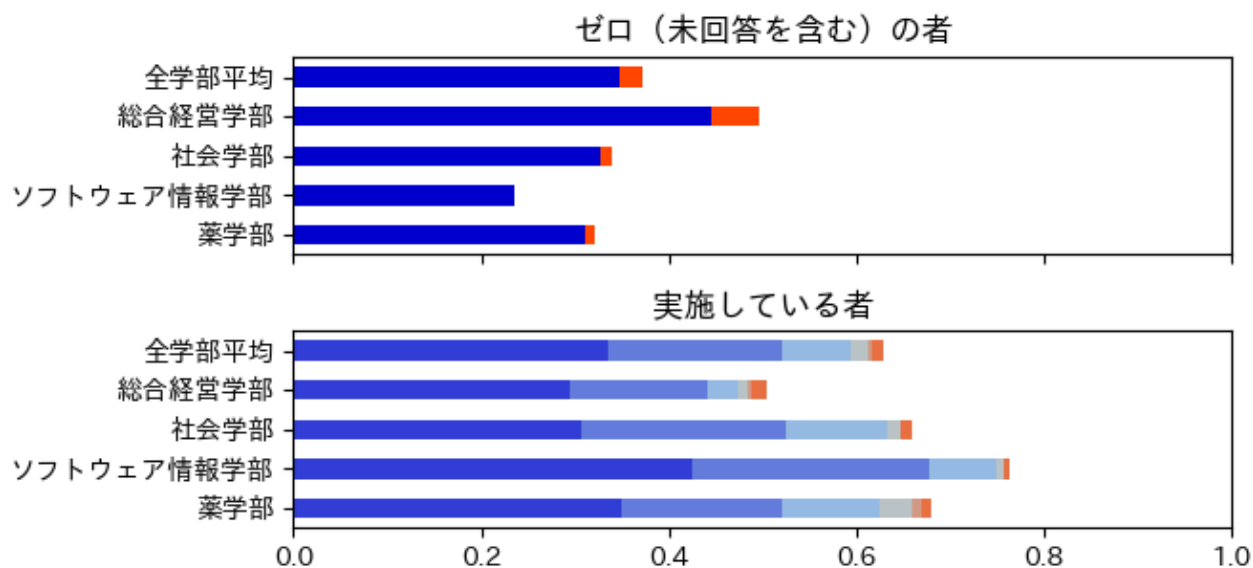


図2 「Q4-2. 授業の予習」の回答分布

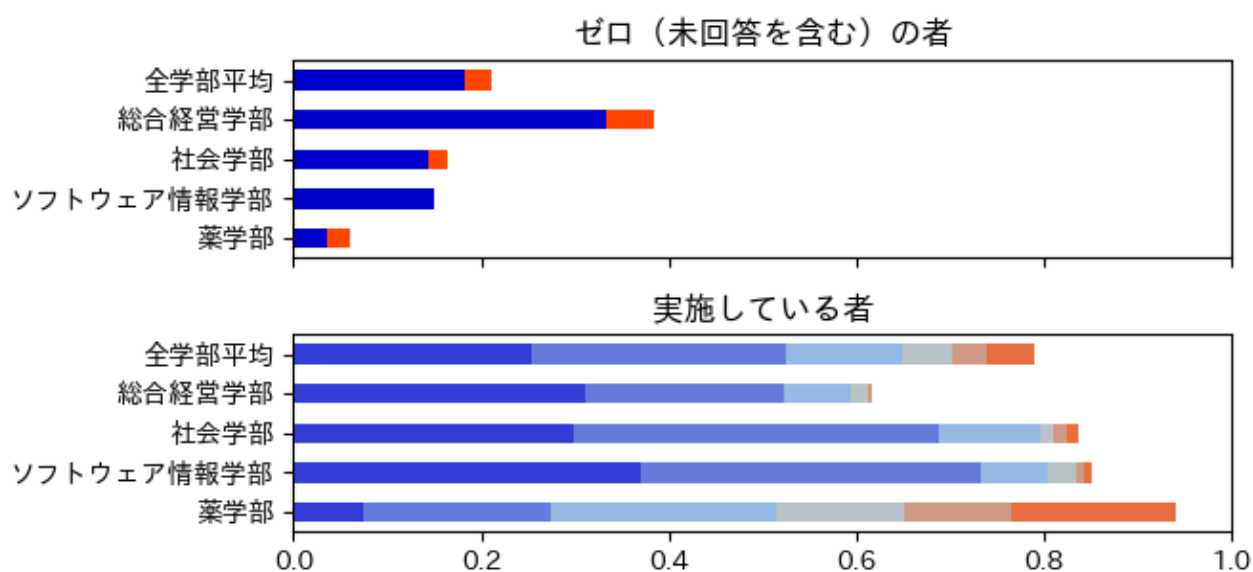


図3 「Q4-3. 授業の復習（宿題や課題を行う時間を含めて）」の回答分布

予習や復習と別の資格取得のためなどの自主的な勉強時間は図4のようになった。全体では、「実施している」割合が56.3%で、社会学部とソフトウェア情報学部で割合が大きく、薬学部は少ない。ただし、薬学部では10時間以上の時間をかけている学生が10.5%と多い。

これまでの調査と比較すると、全学の「実施している」割合は、前々回が59.2%、前回は63.0%とほぼ変化は見られない。また、上記の、薬学部の「実施している」割合が少なく、かつその中で長時間自主的な勉強を行っている率が高めという傾向も前々回以降一貫している。

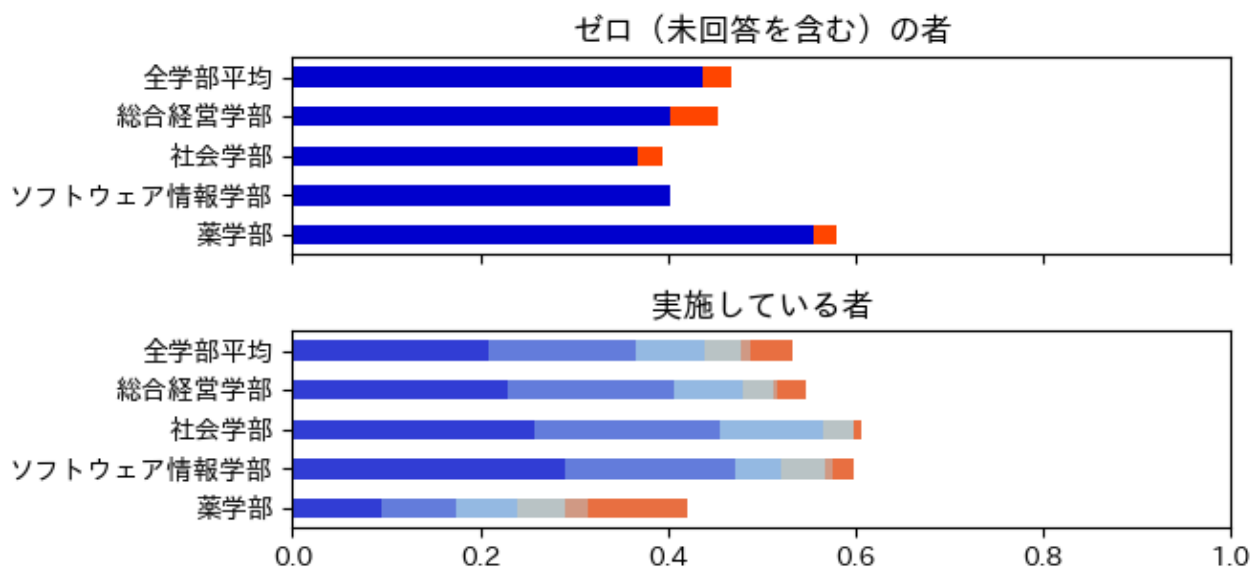


図4 「Q4-4. 資格取得のためなどの自主的な勉強」の回答分布

部活動・サークル活動にかかる時間は、総合経営学部と社会学部が多く、次いでソフトウェア情報学部の順となっている。このうち、週に5時間以上かけている割合は、総合経営学部：48.1%、社会学部：29.9%、ソフトウェア情報学部：25.2%、薬学部：6.5%であった。ソフトウェア情報学部で12.3%と大幅に増加しており、他の3学部はほぼ変わらない。学年別では、1年次と2年次は比較的「実施している」割合が多いものの、3年次に20ポイント程度減少している。

大学外でのアルバイトや仕事にかかる時間は、大学全体では前回と同じく半数弱の学生が「実施している」と回答した。週に5時間以上かけている割合は、総合経営学部：38.4%、社会学部：49.0%、ソフトウェア情報学部：40.2%、薬学部：15.0%となった。前回と比較すると、社会学部で8.0ポイント増、ソフトウェア情報学部で6.9ポイント減となり、あとの2学部はほぼ変わらない。一方、学外でのアルバイトや仕事を行っていない割合は、最大の薬学部で75.0%、最小の社会学部で29.3%であった。学年別では、過去の調査では2年次がもっとも「実施している」割合が高かったが、今回の調査では2年次が微減し、3年次が20ポイント弱も伸びている。この変化は学年進行にともなうものとも考えられる。

なお、アルバイトや仕事にかかる時間の回答は、前回は他のどの質問とも相関は見られなかったが、今回はQ4-2の予習時間との間に0.45とやや相関が見られた。

**Q5. 「授業への参加や大学生活全般」について、以下のそれぞれの機会や状況がどの程度起きているかを、選択肢から選んでください。**

この質問では、大学生活を、授業に取り組む意識 (Q5-1～Q5-3)、主体的な学修 (Q5-4～Q5-6)、授業時の教員の姿勢 (Q5-7～Q5-11)、授業時間外の学修 (Q5-12～Q5-13)、学生支援の状況 (Q5-14～Q5-16)の五つに分けて、意識や状況を尋ねた。

図中の配色は、次のようになっている。

## 回答内容

: 「日常的にある」、
  : 「ときどきある」、
  : 「ほとんどない」、
  : 「まったくない」、
  : 「分からない」、
  : 未回答

授業に取り組む意識に関しては、「Q5-1. 正当な理由なく、授業を欠席する」ことが日常的にある、あるいはときどきあると回答した学生は、前々回から今回にかけて、それぞれ数ポイントずつ減少している。「Q5-2. 授業中は、集中して取り組む」や「Q5-3. なるべく良い成績を取るようになっている」に関しては、日常的あるいはときどきあるという回答がすべての学部で 9 割弱と、前回からの変化は見られなかった。なお、Q5-2 と Q5-3 の回答はそれぞれ離散的であるが、これらの間には 0.54 とやや相関が見られた。

次に、主体的な学修に関する三つの質問では、授業時にグループワークや議論に積極的に参加すると回答した学生は全学で 73.9%と、学部間の差があまり無いことも合わせ、これまでと変化は見られなかった (図 5)。

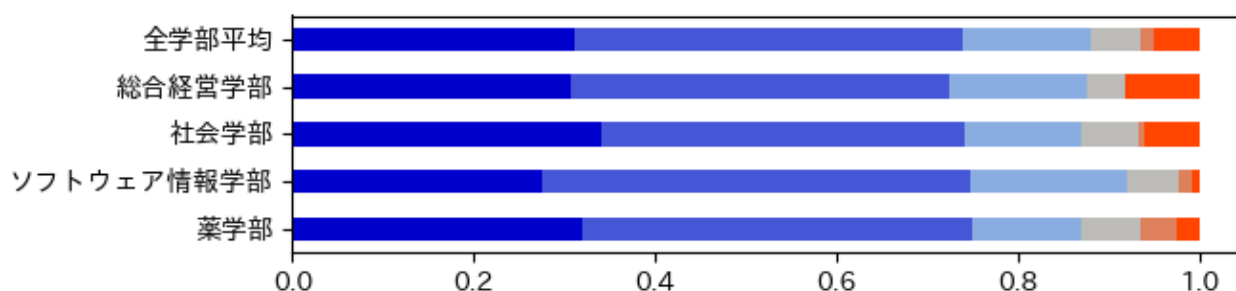


図 5 「Q5-4. 授業内でのグループワークや議論に積極的に参加するようにしている」の回答分布

授業で疑問が生じた際に、教員や友人に質問あるいは書籍やネット検索を行うことについての回答分布は、図 6 と図 7 のような結果となった。総合経営学部と社会学部では、未回答の学生が多いため他の学部よりも割合が低く見えるが、このことを考慮すると質問・ネット検索とも薬学部の割合が高く、他の 3 学部はほぼ同じとなっている。

Q5-4 と Q5-5 には 0.44、及び Q5-5 と Q5-6 には 0.49 とやや相関が見られた。

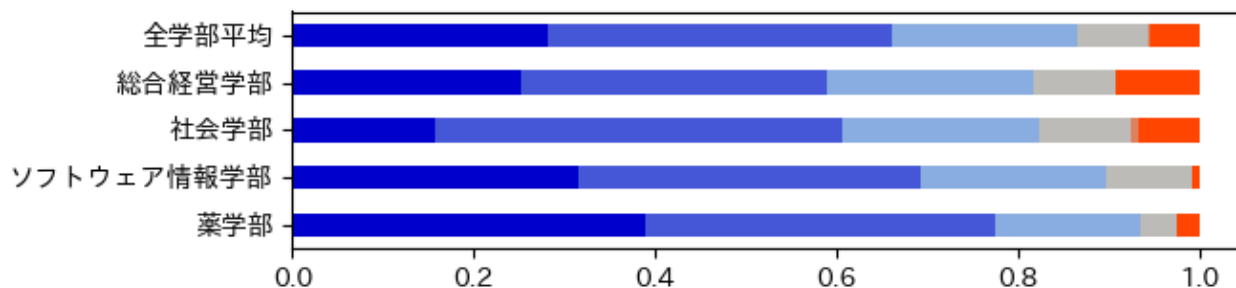


図 6 「Q5-5. 授業で疑問が生じたときには、教員や友人に質問するようにしている」の回答分布

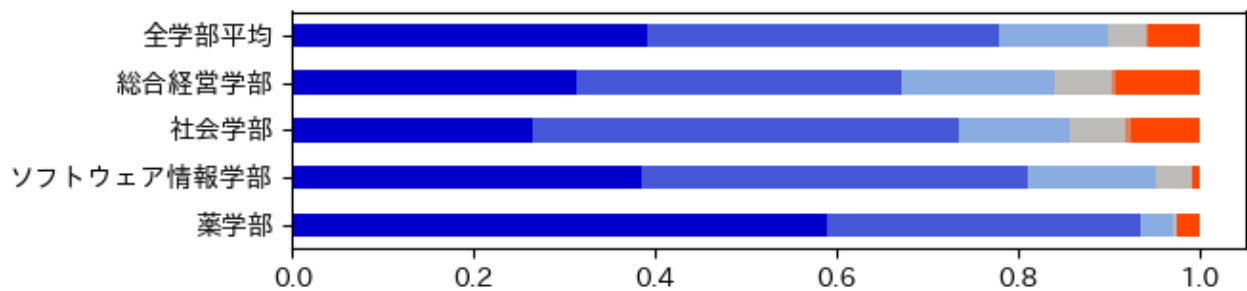


図7 「Q5-6. 授業で疑問が生じたときには、書籍やネット検索で調べるようにしている」の回答分布

授業時の教員の姿勢に関する六つの質問（Q5-7～Q5-11）では、「Q5-7. 授業時に、教員が内容や教え方を工夫していると感じる」では、「日常的にある」または「ときどきある」の割合が68.6%と前回とほぼ変わらない（2.5ポイント減）。この質問でも「分からない」や未回答が総合経営学部と社会学部が多い。こうした回答を除くと、学部間や学年間で違いはほぼ見られない。

「Q5-8. 授業中に、自分の意見や考えを述べる機会がある」と「Q5-9. 授業の中で、グループワークを行う機会がある」については、「日常的にある」と「ときどきある」の合計は、Q5-8では43.6%（前回は49.6%、前々回は41.4%）、Q5-9では59.2%（前回は65.2%、前々回は62.2%）であった。Q5-8については、学部ごとの割合はこれまでと変わりはないが、Q5-9では社会学部が78.2%と前回よりも8ポイントほど高くなり、他の3学部は減少している。この中でも、とくに薬学部が42.0%とこれまでと比較して10ポイント以上少なくなっている。なお、Q5-8とQ5-9の間には、0.55とゆるやかな相関が見られた（前回は0.56）。

「Q5-10. 自分が提出した課題などに、教員が添削やコメントを付けて返却する」では、「日常的にある」と「ときどきある」の合計が44.7%（前回は51.6%、前々回は46.4%）であった。前回の調査で17ポイント増加したソフトウェア情報学部は数ポイント減少したものの、依然、他学部とくらべ20ポイントほど高い割合となっている。薬学部はこれまでの調査では5割程度であったが、今回は4割以下と減少している。「Q5-11. 休講などで授業の予定が変更される」では、「日常的にある」が6.0%（前回は11.3%、前々回は11.8%）であった。前回10ポイント余り減少した薬学部はさらに減り、また前回は特定の教員が一定期間休講を繰り返さざるを得なかったため24.7%と割合が高かったソフトウェア情報学部も、1.6%と大きく減少した。

授業時間外の学修に関する三つの質問（Q5-12～Q5-14）に関しては、自習室や教室などの学内スペースの利用状況は、図8のようになった。これまで同様、薬学部が突出している。

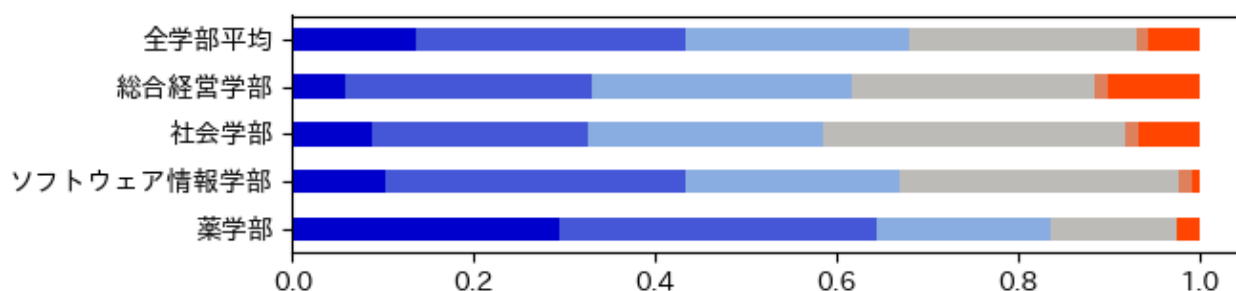


図 8 「Q5-12. 授業時間外の学修のために、自習室や教室などの学内スペースを利用する」の回答分布

「Q5-13. 授業時間外の学修のために、他の学生といっしょに勉強する」は Q5-12 と関連した質問であり、前回と同じく、回答分布は似たものとなり (図 9)、0.40 とやや相関が見られた (前回の相関は 0.39)。

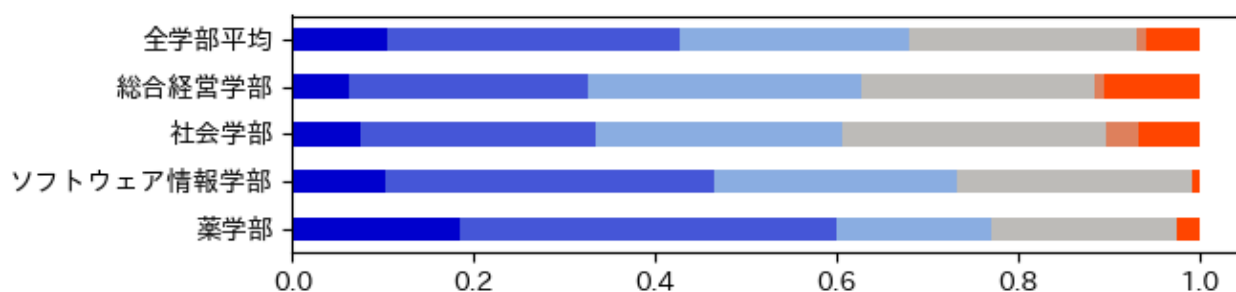


図 9 「Q5-13. 授業時間外の学修のために、他の学生といっしょに勉強する」の回答分布

学生支援の状況に関する三つの質問 (Q5-14~Q5-16) に関しては、他の学生や教員・職員と SNS を利用してコミュニケーションをとる学生は、「日常的にある」と「ときどきある」の合計で前回同様 5 割程度であった。

学業の面や人間関係などの学生生活で困るときに、教員・職員に相談したり、学習支援サービスを利用したりする状況は、図 10 と図 11 のようになった。前者では「日常的にある」と「ときどきある」の合計が全体で 30.1%であり、学部ごとの違いも見られず、さらにこれまでの調査とも同様である。後者では、「日常的にある」と「ときどきある」の合計は 18.6%と前々回の調査から数ポイントずつ増えているが、学部ごとの差は調査の度に異なっており一定でない (前回は全学部でほぼ同じ割合)。次回 (2018 年度後期) 以降の調査も合わせ、傾向を調べたい。

これらの回答も離散的であるが、両者の間に 0.51 とゆるやかな相関が見られた。



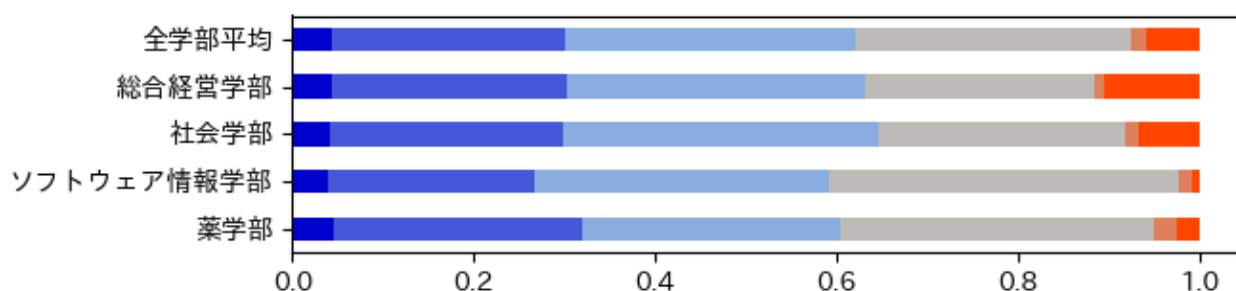


図 10 「Q5-15. 勉学や進路など、学生生活について、教員や職員に相談する」の回答分布

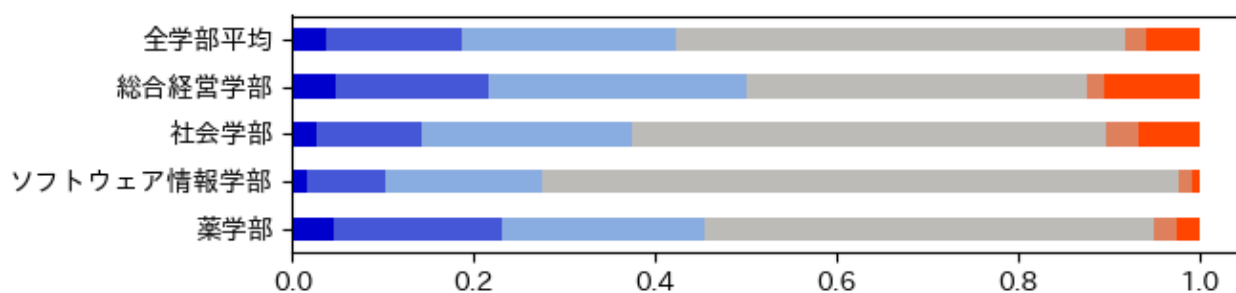


図 11 「Q5-16. 学習支援サービス（オフィスアワー、学習相談窓口など）を利用する」の回答分布

Q 6. 以下のそれぞれについて、意欲や関心をどの程度持っているか、選択肢から選んでください。

この質問では、全学部共通のディプロマ・ポリシーで掲げている次の 4 項目のそれぞれに対して、学生がどの程度意欲的に取り組もうとしているか（Q6-1～Q6-4）と、地域の活動や部・サークル活動の中でどの程度意識しているかを尋ねるものである。なお、「3つの力」とは下記の 1～3 を指す。

1. 生涯をかけて学ぶ続ける力

社会の発展や自身の成長に応じて、広い関心と知的好奇心を持って、新たな価値創造や学習経験等の必要性に気づき、専門分野に限定せずに広い視野で、他者と協働しながら自らの学修を主体的・継続的に進めることができる。

2. 人とつながる力

将来の地域社会を担う主体となることの自覚を持って、自分の考えを効果的に表現するとともに、他者に共感し、敬意を払って対話でき、社会の人々と新たな信頼関係を築きながら、協働することができる。

3. 自分自身を見据え、確かめる力

将来を展望しつつ、自らの学修活動を計画し、その実践を多面的に振り返り、社会において自ら果たすべき責任を自覚し、自身の能力・資質の成長を確認するとともに、新たな課題を発見し、改善策を見出す活動ができる。

#### 4. 専門的知識・技能を活用する力

各学位プログラムの基礎と応用に関する知識・技能を修得し、それらを活用して、課題解決等の実践的活動を計画し、倫理的規範を守って行動することができる。

Q6-1～Q6-6は今回の調査から加えた項目で、これまでの調査では調べていない。図12～17で示すように、いずれの質問でも総合経営学部の未回答率が10%半ばと高いことが目立つ。

図中の配色は、次のようになっている。

#### 回答内容

■ : 「大いに持っている」、 ■ : 「ある程度持っている」、 ■ : 「あまり持っていない」、  
■ : 「まったく持っていない」、 ■ : 「分からない」、 ■ : 未回答

「1. 生涯をかけて学び続ける力」に対応した「Q6-1. 疑問点や対応が必要になった事柄について、自分から学んで対応しようとする」の回答分布は、図12のようになった。全学では、「大いに持っている」と「ある程度持っている」を合わせた割合が71.6%で、このうち薬学部の割合が高い。

この回答とQ5-6の「授業で疑問が生じたときには、書籍やネット検索で調べるようにしている」との間に、0.40とやや相関が見られた。

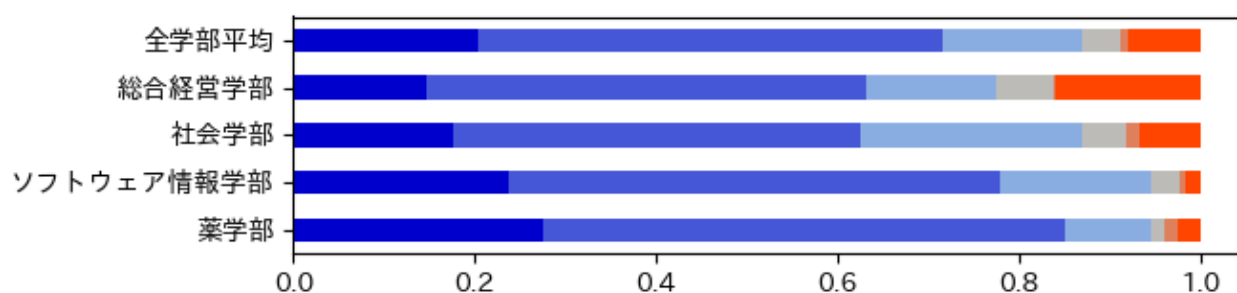


図12 「Q6-1. 疑問点や対応が必要になった事柄について、自分から学んで対応しようとする」の回答分布

「2. 人とつながる力」に対応した「Q6-2. 学内・学外の人々とつながろうとする」の回答状況は、図13のようになった。全学では、「大いに持っている」と「ある程度持っている」の合計が、50.1%と意欲が高めという回答はほぼ半数となった。

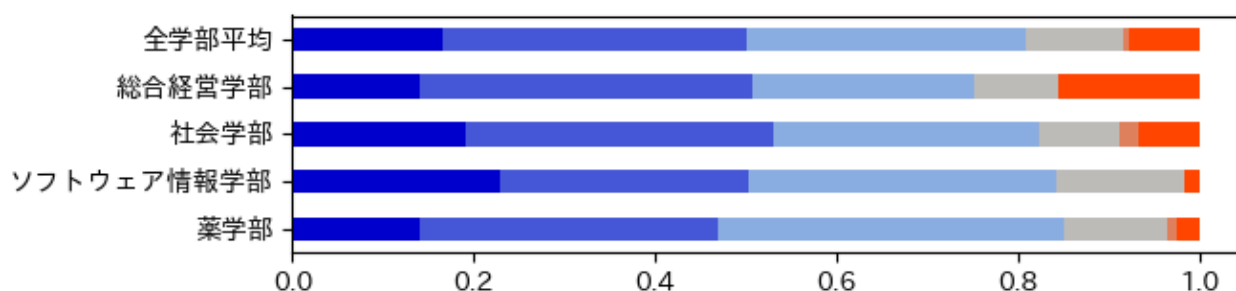


図 13 「Q6-2. 学内・学外の人々となつなろうとする」の回答分布

「3. 自分自身を見据え、確かめる力」に対応した「Q6-3. 自分の現状を確かめながら、将来の目標に向けて計画的に取り組もうとする」の回答は、図 14 の分布となった。全学では、「大いに持っている」と「ある程度持っている」の合計が 68.2%と、Q6-1 と同様に高い。この割合に関しては、学部間での差はあまり見られない。

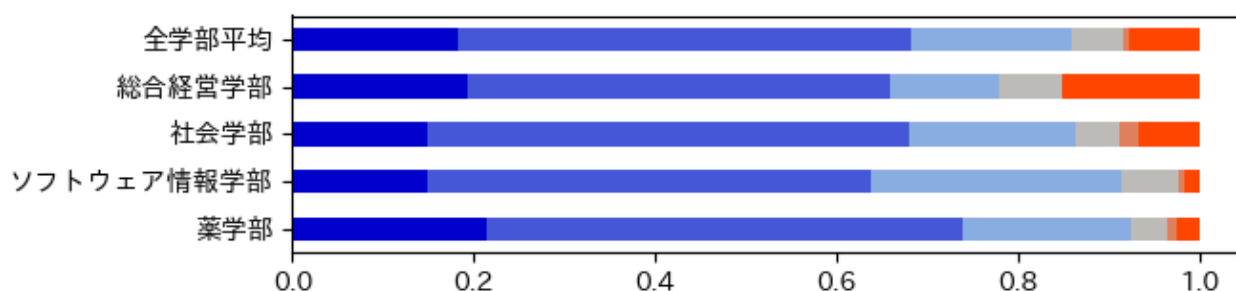


図 14 「Q6-3. 自分の現状を確かめながら、将来の目標に向けて計画的に取り組もうとする」の回答分布

「4. 専門的知識・技能を活用する力」に対応する「Q6-4. 今後に向けて、専門分野の知識・スキルを蓄積し、活用しようとする」の回答状況は、図 15 のようになった。全学では、「大いに持っている」と「ある程度持っている」の合計は、71.9%であった。回答分布は Q6-1 と似通っており、ソフトウェア情報学部や薬学部では「まったく持っていない」の回答はほとんど見られない。

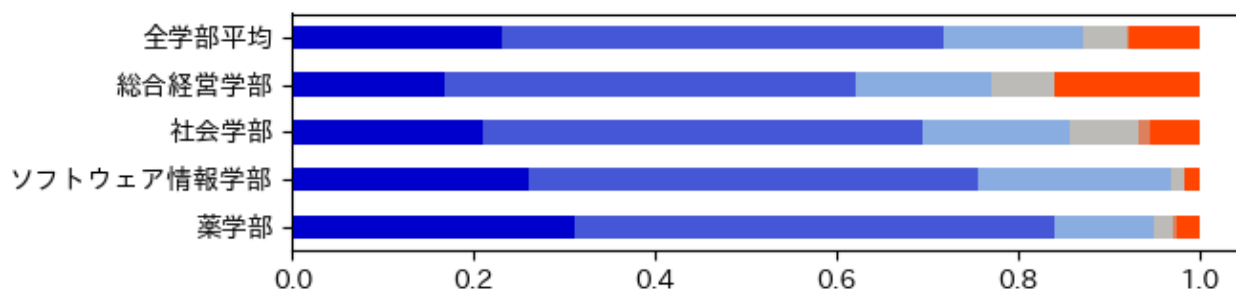


図 15 「Q6-4. 今後に向けて、専門分野の知識・スキルを蓄積し、活用しようとする」の回答分布

本学では「地域とともに生きる大学」として、正課の内外で学生の地域活動を推進している。こうした活動の中で、全学のディプロマ・ポリシーで掲げている「3つの力」(項目1~3)を意識して伸ばそうとしているかを尋ねた結果は、図16のようになった。この分布でも総合経営学部の未回答率が15.5%と高めであるが、その他に薬学部での「分からない」の率が11.0%と多くなっている。全学での「大いに持っている」と「ある程度持っている」の合計は、44.4%であった。この割合について、薬学部とソフトウェア情報学部の割合が低いという点ではQ6-2に近いが、学部間の差はこちらの方が大きい。総合経営学部や社会学部では半数の学生が、「大いに持っている」または「ある程度持っている」と回答している。

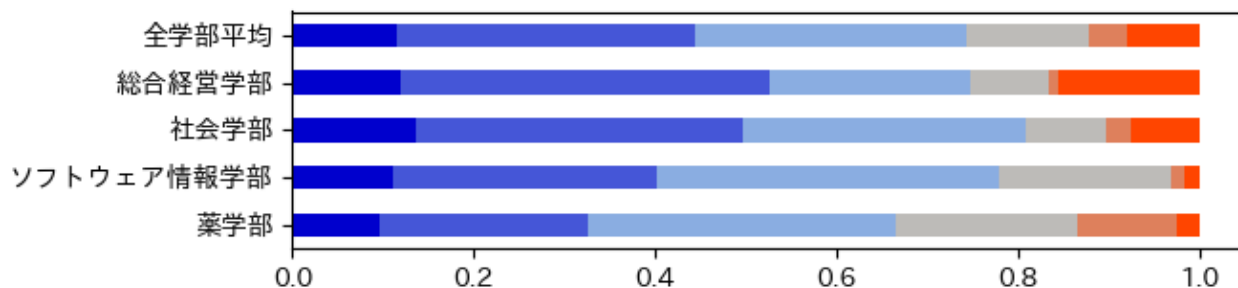


図16 「Q6-5. 地域の活動に取り組み、「3つの力」や専門分野の知識・スキルを伸ばそうとする」の回答分布

地域に関する活動と同じく、本学では部活動やサークル活動などの正課外活動も推進している。部・サークル活動の中で「3つの力」を伸ばすことがどの程度意識されているかを尋ねた結果は、図17のようになった。この設問でも、薬学部の「分からない」という回答が9.5%と多い。全学の「大いに持っている」と「ある程度持っている」の合計は、43.2%であった。各学部の回答傾向は、Q4-5の部活動・サークル活動にかけている時間と近く、部・サークル活動を行っている多くの学生が、「3つの力」を意識していると見てとれる。

なお、Q4-5とQ6-6の回答はそれぞれ離散的であるが、これらの間には0.62とゆるやかな相関が見られた。

さらに、Q6全体での相関は、高い順に、Q6-3とQ6-4が0.58、Q6-1とQ6-4が0.53、Q6-5とQ6-6が0.51、Q6-1とQ6-3が0.48、Q6-2とQ6-5が0.44、Q6-3とQ6-5が0.41、Q6-2とQ6-6が0.39などであった。

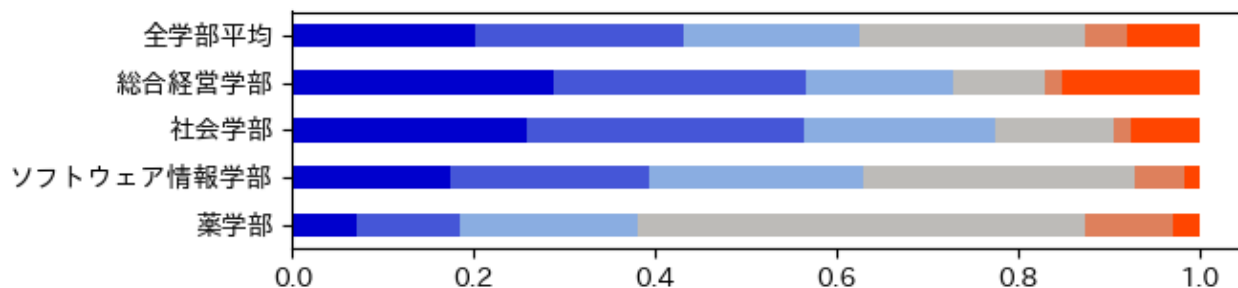


図17 「部・サークル活動に取り組み、「3つの力」を伸ばそうとする」の回答分布

## Q7. 学修環境をより良くするために、あなたの意見やアイデアを自由に書いてください

この質問に対しては、課題と考えられる点や改善意見など、以下の各項に関する合わせて 243 件が寄せられた。ちなみに、前回は 237 件、前々回は 195 件であった。以下に分類とそれぞれの主な内容をまとめる。

- 授業の方法、内容、カリキュラムなど
  - 授業時の私語対応、出欠管理の方法、教員ごとの授業方法の違い、カリキュラム改善
- 学生支援
  - 掲示の方法・内容、履修登録、特待制度、学内の居場所、食堂・購買
- 施設・設備
  - 授業外学修を行う環境、建物や教室・演習室の利用可能時間、ネットワーク環境、冷暖房の環境、学内の清掃
- その他
  - ディプロマ・ポリシー関連の疑問、学生の自律意識

これらの内容は、前回までの学修時間・学修行動調査と同様のものも多い。

寄せられた回答は、個人が特定されないようにした上で、内容を整理して教職員間で共有している。また、昨年度より、意見・アイデアから主なものを抽出し、学内関連組織（教務委員会、FD 委員会、教学改革タスクフォース、学習支援センター、事務局）より回答を作成し、掲示で学生に示している。今回の調査についても、年度内に同様の対応を行う計画を立てている。

## 2018 年度前期 「学修時間・学修行動調査」

教務委員会、学習支援センター

この調査は、皆さんに日常の学び方について回答してもらい、現状を確認するとともに今後の本学の教育活動を改善させることを目的として実施するものです。調査へのご協力をよろしくお願いいたします。

2018 年度前期の状況について、以下の Q 1 から Q 7 までの質問への回答を回答用紙に記入してください。

個人の回答を公表することはありません。回答全体を集計・分析した結果は、本学 Web ページで公開するとともに、教育活動の検証・改善に用います。調査に関して疑問や質問がある場合は、担当の坂井（5422、sakai@aomori-u.ac.jp）もしくは事務局教務・学生課の牧野（makino@aomori-u.ac.jp）までお問い合わせください。

Q 1. 回答用紙のあなたの所属学部にもつて、学年を記入してください。

Q 2. あなたの性別にもつててください。

Q 3. 2018 年度 前期 に履修した科目数（一週間あたりの授業数）を記入してください。

Q 4. 「典型的な一週間あたりの時間の使い方」について、以下のそれぞれの活動にかけている時間を選択肢から選んでください。

Q 4 - 1. ゼミ活動、研究室での研究活動

Q 4 - 2. 授業の予習

Q 4 - 3. 授業の復習（宿題や課題を行う時間を含めて）

Q 4 - 4. 資格取得のためなどの自主的な勉強

Q 4 - 5. 部活動・サークル活動

Q 4 - 6. 大学外でのアルバイトや仕事

Q 5. 「授業への参加や大学生活全般」について、以下のそれぞれの機会や状況がどの程度起きているかを、選択肢から選んでください。

Q 5 - 1. 正当な理由なく、授業を欠席する

Q 5 - 2. 授業中は、集中して取り組む

Q 5 - 3. なるべく良い成績を取るようになっている

Q 5 - 4. 授業内でのグループワークや議論に積極的に参加するようになっている

Q 5 - 5. 授業で疑問が生じたときには、教員や友人に質問するようになっている

Q 5 - 6. 授業で疑問が生じたときには、書籍やネット検索で調べるようになっている

Q 5 - 7. 授業時に、教員が内容や教え方を工夫していると感じる

Q 5 - 8. 授業中に、自分の意見や考えを述べる機会がある

Q 5 - 9. 授業の中で、グループワークを行う機会がある

Q 5 - 10. 自分が提出した課題などに、教員が添削やコメントを付けて返却する

- Q 5 - 1 1. 休講などで授業の予定が変更される
- Q 5 - 1 2. 授業時間外の学修のために、自習室や教室などの学内スペースを利用する
- Q 5 - 1 3. 授業時間外の学修のために、他の学生といっしょに勉強する
- Q 5 - 1 4. 他の学生や教員・職員と SNS を利用してコミュニケーションをとる
- Q 5 - 1 5. 勉学や進路など、学生生活について、教員や職員に相談する
- Q 5 - 1 6. 学習支援サービス（オフィスアワー、学習相談窓口など）を利用する

**Q 6. 以下のそれぞれについて、意欲や関心をどの程度持っているか、選択肢から選んでください。**

- Q 6 - 1. 疑問点や対応が必要になった事柄について、自分から学んで対応しようとする
- Q 6 - 2. 学内・学外の人々とならうとする
- Q 6 - 3. 自分の現状を確かめながら、将来の目標に向けて計画的に取り組もうとする
- Q 6 - 4. 今後に向けて、専門分野の知識・スキルを蓄積し、活用しようとする
- Q 6 - 5. 地域の活動に取り組み、「3つの力」や専門分野の知識・スキルを伸ばそうとする
- Q 6 - 6. 部・サークル活動に取り組み、「3つの力」を伸ばそうとする

**Q 7. 学修環境をより良くするために、あなたの意見やアイデアを自由に書いてください**

質問は以上です。ご協力ありがとうございます。